

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

里山の空を忙しく飛ぶ「とんぼ」。古くは秋津(あきつ)と呼ばれ初秋を感じる時期だ。なぜか飛ぶ姿を見ていと長瀬剛さんが作

詞・作曲をして自らが熱唱する「とんぼ」の歌詞・「ああ しあわせのとんぼよ どこへお前はどこに飛んでいく」のフレーズを口ずさんでしまう。昭和63年「とんぼ」が流行り日本は「平成」という時代を迎えた時だ。

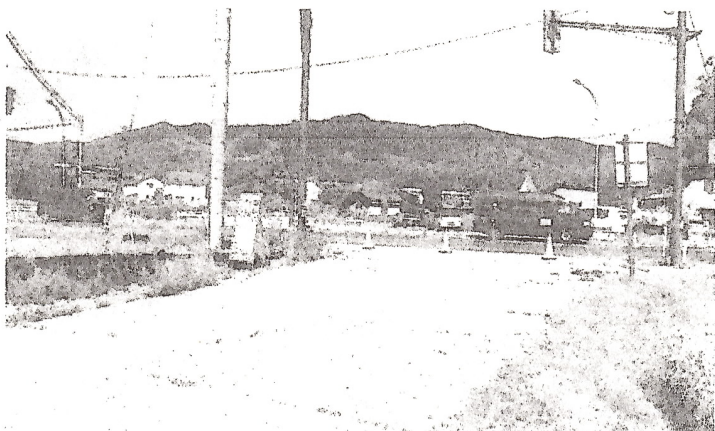
東京に憧れを胸に地方から上京した主人公の姿を描いた歌だが、世間の風にさらされて傷つきながらも夢を諦めずに必死で日々を生き行こうとのメッセージをトンボで表現している。だが、今は少子高齢化で全国至る所で人材不足、夢を叶えるには東京でなくては

もいい時代。南海トラフ地震などで大きなリスクを抱える地域を避けたいとの思いもあるのか、地方を目指す若者も多いと聞く。「とんぼ」を聞くと多くの人に「遠くに行かなくてもいい。郷里で夢を抱いてくれ」と思いが募ってしま

8月下旬になっても猛暑が続いている。日本一の米どころの新潟では、田んぼは干しあがり、所々ひび割れを起こし水分を失ったためか、稲が倒れた映像に驚く。生産者の「実が小さいし色が悪い。売るわけには

山岳観光地としての視点が重要だ

長年の懸案を余儀なくされていた。



国道148号線新田地域内舗装工事。事前告知のない交通止めの対応は、まだ国道付替え工事の約束事項が解決していない森上住民にとって不愉快な気分になる。

は、登山ルートとしていかなない。」との悲痛な声だ。私達の地域は西側の山を水源とした河川は例年より少ないが清流が絶え間なく流れ、稲の生育に必要な水量が得られている。何時もながらに山岳上部に残る残雪の雪解け部に残る残雪の雪解けは、登山ルートとしても登山所要時間が大幅に短縮でき、真夏の雪渓上の体験や高山植物の多様な植生を観ることができ重要な登山道だ。今年はシーズン当初から大雪渓上部の登山ルートは、安全のため秋道に変更を余儀なくされていた。

岳観光の継続の可能性を探るべきだろう。まさにこれからの国際的観光地であり続けるためにより強い意識が求められている。(信州地域社会フォーラム会員 白馬村森上)